

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成23年1月13日

施設名	高知県立歴史民俗資料館	所管課	文化・国際課
-----	-------------	-----	--------

1 施設の概要

指定管理者名	財団法人高知県文化財団	指定期間	平成21年4月1日～平成26年3月31日
施設所在地	南国市岡豊町1088-1		
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・高知県の歴史、考古及び民俗(以下「歴史民俗等」という。)に関する資料の収集、保管及び展示 ・歴史民俗等に関する専門的な調査研究 ・歴史民俗等に関する講演会、講習会、研究会等の教育普及活動 ・高知県における文化財の保存、活用の推進 ・上記のほか、歴史民俗資料館の設置の目的を達成するために必要な業務 		
施設内容	<p>○ 面積、施設・設備名、定員、開館時間、休館日、主な料金など</p> <p><建物> 延床面積4527.47㎡ RC造地上3階建 <土地> 124,520㎡ <主要施設> 常設展示室、企画展示室、体験学習室、AVホール、収蔵庫、燻蒸室、研究室、会議室、資料室など <開館時間> 午前9時～午後5時 <休館日> 12月27日～1月1日 <主な料金> 常設展 一般450円 ※高校生以下、高知県長寿手帳所持者(65歳以上)は無料 施設利用料 企画展示室23,470円(1日) AVホール14,990円</p>		
職員体制	特別職非常勤: 1人 常勤職員: 8人 契約職員: 9人 合計: 18人		

※職員数は平成22年4月1日現在

2 収支の状況

単位:千円

		平成20年度(決算)	平成21年度(決算)	平成22年度(予算)
収入	県支出金	158,540	161,648	191,040
	事業収入	7,694	7,991	16,430
	その他	3,800		
	収入計	170,034	169,639	207,470
支出	事業費	31,486	28,871	61,133
	管理運営費	139,153	138,055	146,337
	(うち人件費)	(90,799)	(91,274)	(77,315)
	その他	4,004	2,713	
	支出計	174,643	169,639	207,470

3 利用状況

		平成20年度(実績)	平成21年度(実績)	平成22年度(目標)
①年間利用者数(単位:人)	常設展	2,930人	3,283人	3,500人
	企画展	19,428人	19,892人	41,500人
	合計	22,358人	23,175人	45,000人
	<利用実績>平成21年度は展示室の改修を行い、11月10日から3月20日まで約4か月間休館しているが、常設・企画展の利用者数は、前年度比817人増の23,175人となっており、館の目標であった20,500人を達成している。 平成22年度はリニューアルによる長宗我部室の新設などのリニューアル効果や特別展龍馬伝開催による観覧者45,000人を目標としている。			

4-1 平成21年度業務評価(指定時の県の要求水準に対する項目による)

項 目		評価	事業評価委員会意見
①指定管理期間における要求水準1「資料センターとしての機能を果たし歴史文化を未来に伝える」			
高知県の歴史や文化に関する膨大な資料を適正に管理し、また調査研究の成果を公開することでこれまでの歴史の積み重ねのうえに現在の高知県があることを今に伝え、また未来へと引き継ぐ。		A	・とても頑張っていると評価する。
高知県の歴史、考古、民俗の各分野の資料等を適切に管理保管し、次世代に引き継ぐ	収蔵機能の維持に努める。特に地震から資料を守るため収蔵庫の棚の地震対策を進める	A	・耐震化への対応100%を目指してほしい。
	資料収集は長期保存を念頭に置き、本県の歴史文化のうえで後世に伝えることが必要なものを対象とし、適切な保管に努める	A	・民俗資料の地域保存に取り組んでいる。
	収蔵庫の状況や埋蔵文化財センターとの機能分担の観点から、収集及び保管のあり方について検討する	B	
	収蔵資料のデータ化を進めるとともに、資料館にどのような資料があるのか県民に分かりやすく紹介する	B	
	貴重な資料を保管することができる収蔵機能とノウハウにより、資料館の資料の他、他の文化施設等が所管する県有資料の保管も行うなど、県全体の資料センターの役割を担う	B	
収蔵資料の調査研究を進め、その成果を常設展示及び企画展示等の方法で広く県民に公開する	より個性ある資料館を目指すため、資料収集や調査研究のテーマに例えば長宗我部氏や四国遍路、近世庶民氏など特色を打ち出す	B	
	高知県唯一の重要文化財の「公開承認施設」であることから、県外博物館との連携も行いながら魅力ある企画展の開催に努める	B	
上記の要求水準以外の取組		B	
②指定管理期間における要求水準2「高知県の歴史や文化を学ぶ拠点となる」			
展示や教育普及事業を充実させ、県民が、自ら生まれ育った高知県の歴史や文化を知るための拠点となる。展示や教育普及事業を充実させ、県民が、自ら生まれ育った高知県の歴史や文化を知るための拠点となる。		A	・地味なイメージが強いが、努力している。
展示施設、展示内容の両面でリニューアルに向けた検討と実施を行う		A	
子どもを対象とする出前授業や資料館での校外学習に計画的に取り組む	県民が郷土の歴史や文化に親しむことのできる講座等の開催	A	・講座が人気。特に、「食のこころ」は魅力的な講座となっている。
	資料解説や関連図書等の充実を図るなどで、レファレンス機能を高める	B	
	遠隔地からでもインターネット等により資料館を訪れ学習できるような取組を進める	B	・データベース化の推進に一層取り組んでほしい。

長宗我部氏関係の資料収集や研究、その展示等において全国に誇れる資料館となる	A	
岡豊山を含めて知的好奇心を高めることができるゾーンの形成を目指すなど、地域との連携を進める	A	
上記の要求水準以外の取組	B	・駐車場不足の解消に向けた対策を検討する必要がある。

4-2 平成21年度業務評価(効率的な運営、サービスの向上、施設、設備の管理に関する評価)

経営努力 収入増加の取組 経費削減の取組	B	
サービス向上への取組 自己点検・評価の状況 事故、クレームへの対応 職員の専門性の向上 研修の実施状況 その他サービス向上の取組	B	・企画事業が興味深い。 ・受付職員の対応がいつも良い。 ・学芸員が良く研究している。
社会的責任 法令等の遵守 個人情報、情報公開の状況	B	
建物や設備の管理 点検・修繕の実績 業務委託の状況	B	
危機管理 風水害、火災、地震、盗難等危機管理対策 マニュアルの作成 職員研修	B	

総合評価	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年、積極的に事業展開している。 ・広報活動により、県民に情報が届いている。 ・地味ではあるが現代に必要な歴史・民俗情報の発信に努めている。 ・県の歴史を学術的に示し、語る機関として重要な役割を果たしている。 ・観光に重点を置くか研究に重点を置くかの分岐点に来ている。 ・授業で取り扱えるような指導案例を教員に配布するなど、長宗我部氏について学校教育の中で活かせるようにしたい。 ・館長以下全員が熱意をもって運営している。 ・職員の努力がうかがわれる。
------	---	--

- 【評価の目安】
- A: 仕様書(要求水準)の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 - B: おおむね仕様書(要求水準)の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 - C: 仕様書(要求水準)の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 - D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの